

2021年9月27日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 営業状況

・放送収入

今年の4月－8月はタイム・スポットとも前年同期比を上回り、放送収入の合計でも一定規模の増収となった。コロナ禍以前の2019年度の同期でみても、ほぼ同じ水準になっている。今後コロナ禍の影響はどの程度続くのか注視している。

・放送外収入

現在公開中の映画『竜とそばかすの姫』は興行収入62.7億円（9月26日時点）に到達し、大ヒットとなった。アニメ『僕のヒーローアカデミア』も31.8億の興行収入となっており、シリーズ3作目にして最大のヒットとなり、この2作品が映画全体をけん引している。

また、『バンクシーって誰？展』も人気イベントとなっている。

2. 質疑他

Q. 10月改編について

A. 10月の改編については、「OFFからONへ、ONからFANへ」というキーワードの通り、若い世代の人たちをはじめ、多様化した視聴者の皆様にテレビを選択して見ていただきたいという思いを込めた改編となっている。

Q. 今年の「24時間テレビ」について

A. 今年は昨年以上にコロナ感染防止策を徹底させて取り組んだ。King & Prince が初のパーソナリティを務め、若い感性で番組を引っ張ってくださいました。この番組は、日本テレビが視聴者の皆様と一緒にチャリティーについて考え、様々な社会活動に参加してもらおうという趣旨で始まったものであり、今年で44回目となった。コロナ禍という困難な状況にあっても、番組を無事に放送できたことは大変良かったと受け止めている。同時にご協力頂いた皆様方にも感謝を申し上げたい。

今年はキャッシュレスを中心に募金を行い、番組終了時点で4.2億円お預かりしました。お預かりした募金は福祉車両の贈呈の他、自然災害緊急支援として、今年の7月に土石流災害に遭われた熱海市と、8月の大雨で長崎県・佐賀県・長野県・島根県の4県に、それぞれ義援金をお送りした。

パラスポーツ支援もずっと続けており、以前バスケットボール用車椅子を寄贈したアスリートの何名かは、今回の東京パラリンピックで活躍した。

Q. 日テレ系ライブ配信について

A. 動画・インターネット配信広告視聴は、急速な拡大を今たどっている。デジタル機器を使いこなしている若い方に、デジタル機器を通じて、我々の制作しているコンテンツを見てもらいたいという希望がある。同時に、テレビに回帰してもらう効果も期待している。

Q. 「ザ・世界仰天ニュース」について

A. 視聴者から多くのご意見・ご提案を頂いた。真摯に受け止めてより良い番組にしていきたい。医療関係者から直接我々も話を伺い、ご心配・ご迷惑をお掛けしたことを放送でお詫びし、リスクについても注意喚起をした。

医療分野において、標準治療や診療ガイドラインをよく理解して放送しなければならないが、結果的に患者の皆様や、その家族の皆様、治療に努めていらっしゃる医師の皆様にご心配・ご迷惑をおかけしてしまい、お詫びした。

番組の取材・編集マニュアルの実施を徹底し、医療関係者からの研修も先週から実施している。

Q. 今年の年末特番「絶対に笑ってはいけないシリーズ」休止とBPOについて

A. BPOの委員会審議を見守りたい。番組の休止と本件は全く関係ない。

Q. 今年の東京五輪について

A. 民放では今回最多となる4日間、朝から深夜2時までの長尺編成を行い、視聴者の皆さんに多くの印象的なシーンをお届けできた。

パラリンピックは自国開催ということもあり民放でも放送することが可能になり、日本テレビでもアーチェリー、車いすバスケットボールといった競技を放送出来たことが大きな収穫。

(了)

杉山 美邦 代表取締役 社長執行役員

福田 博之 取締役 常務執行役員

沢 桂一 取締役 執行役員